



Project Report 2022-2024

キッカケ ラボの現在

- 01 ごあいさつ
- 02 キッカケラボ。はじまりました！
- 03 数字で見るキッカケラボ
- 05 **01** キッカケマルシェ
- 07 **02** ふくつたいけんプログラム
- 08 **03** ふくつ地域デビュー講座
- 09 **04** SDGsのキッカフェ
- 11 **05** ふくつプレイヤーズ
- 12 **06** テーマ型(地域課題から生まれる)ネットワーク
- 13 **07** バススクール
- 15 **08** みんなで交流大作戦！
- 16 **09** 他組織・他施設との連携
- 17 **10** ふくつウェルビーイング大賞 2024
- 19 幸せと市民活動の9つの関係
- 21 福津市未来共創会議
- 22 コネクター



Project Report

2022-2024

キッカケ ラボの現在

この「Project Report」は、キッカケラボがスタートした2022年7月から2025年3月までの約3年間（2年9ヶ月）で実施した事業や取り組みを記録したものです。冊子の制作には多くの皆さんに参加いただき、取材や資料提供にも多くのご協力いただきました。おかげさまで、これまでに何を実現できたのか、しっかりと振り返ることができました。本当にありがとうございました。

ごあいさつ

「幸せなまち」とは、どのようなまちだろう。福津市未来共創センター キッカケラボは、福津市オリジナルの「幸せなまち」の姿を市民共働・公民連携で探求し、実現していく拠点として2022年7月から活動を開始しました。

今、全国の自治体において、地域の担い手の高齢化と人材不足が大きな課題となっています。このような中、福津市ではキッカケラボを中心に、30～40代の子育て世代をはじめとした多様な世代や属性の人びとが集まり、主体的にまちづくりに関わる流れが生まれてきています。さらに、福津市のまちづくりに関心をもつ市外の在住者や企業、大学等との連携も進むなど、未来につながる希望の芽が育ちはじめています。

キッカケラボは、市内外の多様な人びとが福津のまちやまちづくりにつながる「入口」としての機能を担っています。「このまちで何かやってみたい」「自分の得意なことを生かしたい」という思いを持った個人や団体に対して、「コネクター」と呼ばれるスタッフが必要な人材や情報、活動等とつながりながら、その実現に向けた支援に取り組んでいます。

キッカケラボの取組の先——10年後、20年後の福

津市では、自らの手で未来を描き、実現に向けて行動するさまざまな市民や団体が、まちのあちこちに溢れ、活躍する姿を思い描くことができます。多様な人たちがつながり合い、支え合いながら、まちやまちづくりに関わることの面白さや喜びを実感できる。

そのような市民主体のまちこそが、「幸せなまち」のひとつの姿であり、持続可能な社会を支える重要な基盤であると考えます。

本報告書は、キッカケラボ設立時から2025年3月までの3年間の活動の記録です。これまでキッカケラボの活動にご支援・ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げますとともに、この報告書が福津市のみならず、同じ課題に取り組む全国の自治体や地域にとって、未来への希望や行動の一助になることを願っています。



福津市未来共創センター キッカケ ラボ
センター長 山田 雄三

キッカケラボ。はじまりました！

福津市未来共創センター キッカケラボは、2022年7月、福津に関わる皆さんがつながり合い、新たな可能性を創り出すために誕生しました。2019年にSDGs未来都市となった福津市で、福津に暮らす方、このまちで働く方や学生さん、そして市外に暮らしながらも「福津が好き！」とってくれる方。そんな多彩な人たちが集い、お互いの特性を持ち寄って、一緒にまちの未来を描いていく場所です。ここでは、課題解決に取り組む市民活動団体をはじめ、自分の趣味や関心ごとを広めたい人、地域と連携したい企業や学校など、あらゆる人が学びあい、意見を出しあいながら、生きがいを持って暮らせるまちとなることを目指します。「何かをはじめてみたい」「やりがいを見つけたい」という方に向けて、その想いに寄り添う多様なプログラムを通して、その名の通り、市民の皆さんのキッカケづくりをサポートします。市ともつながりながら事業を担う「事務局」と、地域活動の実践者や専門家により構成される「未来共創会議」、ラボの運営にも参画し、福津のまちと関わり何かを始めてみたい「プレイヤー」の3者が連携し、多くの取り組みを展開します。



未来共創会議

地域活動の実践者や専門家により構成される、キッカケラボの司となるチームです。「事務局」から提案される業務方針の設定や毎年度の目標達成に向けた審議、市への提言、評価や改善案の検討などを通して、中長期的な視点からラボの伴走支援を担います。

プレイヤー

福津市に関わり、何かを始めてみたい人たちが自発的に集うコミュニティです。市民活動に関する情報共有から始まり、多様なプレイヤーによる新しいチームの形成やラボの運営にも参画。新しいスタイルの地域の担い手として福津のまちで躍動します。



キッカケ ラボ
KIKKAKE LAB.

事務局

行政と連携・共働しながら、キッカケラボの事業企画・運営、関係者間の調整、市民の参画促進などを担う実践機関です。市民から「コネクター」を登用し、中間支援機能の構築や地域活動の伴走支援に取り組んでいます。

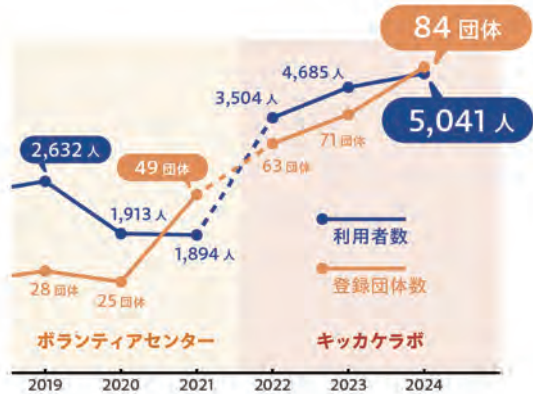
コネクター

市民活動に関する相談対応、市民活動団体の取り組みや企業の社会貢献活動の情報収集（ヒアリング）などを通して市内の情報を把握し、同じ課題に取り組む同士をつなげたり、新たなプロジェクトの創出を伴走支援します。独自のスタイルで活動する「キッカケ仕掛け人」です。

数字で見るキッカケラボ

利用者数・登録団体数

施設に関わる人や団体の数は、爆発的に増加しています。旧ボラセン時代の最も多かった数値と比較しても、年間の利用者数が2,632人から5,041人、登録団体数が49団体から84団体とその差は歴然です！



キッカケラボが実施した講座の受講者数

ラボが実施した講座(ボランティア、市民活動、まちづくりなど)の受講者数は3年間で1,946名。中学生から高齢者、活躍の場を探している企業まで、多様な市民がまちへの想いを共有しました。



相談者の多様な属性

ラボに相談で訪れた方は、3年間で814名。これまで、市民活動団体が圧倒的だった相談者の属性も、企業や行政、学生、これから何かを始めたい市民など、多岐にわたるものに変容しています。



ヒアリング数(団体・施設・企業など)

コネクターが現地に出向き、まちづくりに取り組む団体や企業などに、その内容やまちへの想いをヒアリングしています。その数は3年間で376件。思いや願いをつなぐデータベースとして活用しています。

376件

コーディネート件数

「何か始めたい」「課題があり悩んでる」いろんな相談から、その解決を担ってくれる「誰か」を探し、おつなぎした「コーディネート」の数は3年間で111件。みんなの笑顔を生み出すのもラボの使命です。



視察受け入れ団体数

開館1年を迎える頃から、多くの視察や問合わせを受けるようになりました。実際に足を運んでいただいた視察団体数だけでも29件。この数は、ラボが多くの注目を集めている証と言えます。



キッカケラボで

学ぶ

P5-P10

- 01 キッカケマルシェ
- 02 ふくつたいけんプログラム
- 03 ふくつ地域デビュー講座
- 04 SDGsのキッカフェ

キッカケラボで

企てる

P11-P14

- 05 ふくつプレイヤーズ
- 06 テーマ型ネットワーク
- 07 バススクール

キッカケラボで

繋がる

P15-P18

- 08 みんなで交流大作戦！
- 09 他組織・他施設との連携
- 10 ふくつウェルビーイング大賞 2024

これまでの取り組み

Past Initiatives

ここからは、キッカケラボで実践されているプログラムやイベントについて、「学ぶ」「企てる」「繋がる」からなる3つの視点に沿ってご紹介します。

まずはじめに、「学ぶ」では、ラボが実施している講座など、市民の皆さんが市民活動やまちづくりに興味を持ち、その取り組みを始める入口となる事業を紹介します。続く、「企てる」では、ラボを起点として、市民活動団体や企業、そして市民一人ひとりが、立ち上がり取り組んでいるムーブメントをご紹介します。最後に「繋がる」では、ラボからスタートして、多様な人たちが手を組み、地域課題やウェルビーイングの実践へと広がっている展開をご紹介します。

キッカケマルシェ

開催：2023年2月25日、26日 参加者（福津ライフ検定）数：580名 場所：イオンモール福津 サウスコート



はじめよう、キッカケづくり！ 福津に関わると、人生が豊かになる。

キッカケラボの開館を記念し、そのPRも兼ねた2日間のイベントをイオンモール福津サウスコートで開催しました。「福津に関わると、人生が豊かになる。」と題し、SDGs 未来都市として、「幸せのまちづくり」を目指す福津市の姿を紹介。

市民活動への参加と個人の幸福度に重要な関係性があることを知っていただこうと、「福津ライフ／福津で暮らすウェルビーイングなひとびと」として、福津市民の12人をピックアップし、大パネルとその方が大事にしているモノを展示、来場者からの注目を集めていました。その他の展示では、イオンモール内のテナントに協力いただき、エシカル商品等を紹介する「暮らしでつながるSDGs展」や福津市の豊かさやまちづくりの現在を学べるブースも、多くの市民で賑わいました。「福津ライフ検定」と題したクイズを実施し、そのヒントを展示やパネルの中に潜ませたことで、会場内をじっくりと見てもらうように誘導できました。この検定には、580名が参加し、福津市がSDGs 未来都市であることや、全国で最も住みたいまちとして期待を集めていることなど、市民にとって知らなかった福津を知ることができるキッカケとなりました。

また、市民一人ひとりに、ボランティアやSDGsの取り組みに興味を持ち、少しでも活動に参加する機会を持ってほしいとの思いから、ステージでのミニレクチャーや体験イベント、ワークショップなどが順次実

施され、楽しみながら市民活動に触れる機会を創出しています。福津市と包括連携協定を結んでいる花王グループカスタマーマーケティング株式会社などもワークショップブースを展開し、行政だけではなく、企業や事業者・市民も一緒になった取り組みであることを印象付けています。ステージには、福津市長やイオンモール福津のゼネラルマネージャー、無印良品のスタッフなども登壇し、福津市やスタートを切ったばかりのキッカケラボの思いや取り組みを知ってもらおう大事な機会となりました。





Fukutsu Experience Programs

ふくつたいけんプログラム

プログラム数:19 種類/「地域の“活動”たいけん」14 種類、「地域の“人”かばんもち」5 種類(2025 年 3 月 31 日現在)



「なにか、やってみたい！」という 市民の勇気ある一歩を支えるプログラム。

「ふくつたいけんプログラム」は、これから市民活動やボランティアを始めてみたい方に適した、初心者大歓迎の参加型プログラムです。団体に所属することなく、1日限定でリアルな現場での活動が体験できるので、「自分に合う取り組みってなんだろう？」と悩んでいる方にも、見て・感じて・試せる、お試しの場として活用できます。登録団体の協力により、環境問題から、福祉や子どもに向けた取り組みまで、現在 19 種類の幅広い体験テーマが用意されており、普段は見ることができない「本当の福津の姿」を、実感とともに学ぶことができます。

このプログラムの大きな特色は、福津ならではの特性から生まれた 2 つのタイプの体験プログラムがあることです。

まずは、市民活動の取り組みに参加する「地域の“活動”たいけん」。こちらは、従来の市民活動団体に加え、地元企業の社会貢献事業なども加わり、多様な活動に参加できます。

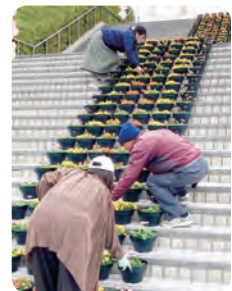
そしてもう一つは、充実した毎日を過ごす人の 1 日に同行する「地域の“人”かばんもち」。こちらは、その人となりや価値観に触れ、自分らしい暮らし方を考えるきっかけとなります。体験者だけでなく、受け入れ団体にも学びがあるこのプログラムは、福津の市民活動を次世代に繋ぐ架け橋として、今後も充実を図っていきます。

ふくつたいけんプログラム

Fukutsu Experience Programs

1. 地域の“活動”たいけんプログラム

ビーチクリーン活動や、花植え体験、傾聴ボランティアなど、NPO や任意団体によるボランティア活動に加え地元企業が行っている社会貢献活動への参加体験等、より多様な市民活動のプログラムを 14 種類用意しています。



2. 地域の“人”かばんもちプログラム

地域で活躍している人に 1 日同行できる貴重なプログラムです。間近でその活動や人となりに触れることで、新たな価値観と出会うきっかけになります。現在、5 種類（5 人）のプログラムをご用意しています。



事業実績

03

Region debut course in Fukutsu

ふくつ地域デビュー講座

主な連携先：郷づくり推進協議会、福津市社会福祉協議会、福津市シルバー人材センターほか



仕事にひと段落ついたなら、一緒に地域活動でも、はじめてみませんか？

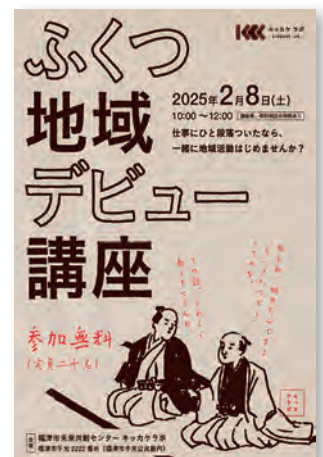
「住んでるまちが気になってるけど、どうやって関わればいいんだろう？」そんな思いを抱く退職世代の男性を主な対象に、出番と居場所を見つけるための講座として生まれたのが「ふくつ地域デビュー講座」です。

この講座の大きな特徴は、講座後の個別対応を丁寧に行っていること。全国各地に「地域デビュー」と名のつく講座が数多くありますが、キッカケラボでは、講座終了後に一人ひとりの声に耳を傾けるアフターフォローの仕組みを大切にしています。シルバー人材センター、社会福祉協議会などの協力を得て、講座終了後に

は個別相談会も開催。さらに、アンケートに連絡先を書いてくれた方には、講座の1週間後をめぐりにフォローの電話をかける後押しなども実施しました。実際に「講座を受けて地域に興味が湧いた」と、まちづくりの報告会に参加した方、「行ってみたいけど不安だから着いてきて！」と団体訪問にコネクターが同伴した事例もあります。地域への入口にそっと寄り添うこの講座が、いろんな地域への気持ちにポジティブなキッカケを生みだしています。

また、この講座のもう一つの特色は、「選択肢を一つにしない」こと。郷づくりに参加する月曜日、アルバイトに励む火曜日、奥さんとお散歩を楽しむ水曜日と、自身のライフサイクルに合わせて、暮らし方と共に選べるのが、新しい地域デビューの形だというメッセージです。

地域の側にも、「つながりあえる受け皿」が求められている時代。そうした意味でもこの講座は、今後の展開に向けたたくさんのヒントを含む取り組みとなっています。



SDGs のキッカフェ

ゲスト：林田産業、エシカル消費、GOMITAIJI、小寺油脂、いいざい、イケア・ジャパン、トヨタ自動車九州



SDGs を暮らしや地域に活かしたい。 もっと身近にしたいくて生まれた、カフェ感覚のカタリバ。

「SDGs のキッカフェ」は、福津市で SDGs（持続可能な開発目標）への意識や取り組みを広げていくために生まれました。SDGs については、本やインターネットで詳しく知ることができますが、「それって自分に関係あるのかな？」と感じてしまう人も少なくありません。

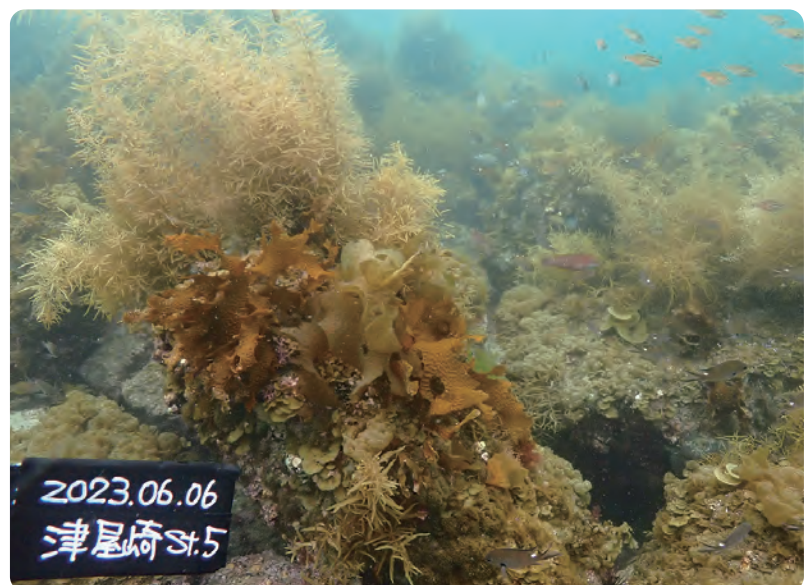
キッカフェでは、SDGs と関わりの深い活動を実践している企業や専門分野の方をゲストに迎え、カフェでおしゃべりする感覚で楽しめるカタリバを開きます。トークショー形式で、美味しいコーヒーを楽しみながら進んでいく時間の中では、普段はなかなか聞けない企業人の本音や、社会の裏側の話も飛び出します。

テーマは多彩です。たとえば、自分の家の裏山にある放置竹林の問題（株式会社林田産業）、地球にやさしいお買い物ってなんだろう？（エシカル消費）、建設現場の廃材をアップサイクルする取り組み（一般社団法人 GOMITAIJI）、食用油から電気をつくり日々の暮らしに返すプロジェクト（小寺油脂株式会社）、自分のまちの「美味しい」を守り育てる活動（一般社団法人いいざい）、その人らしい働き方や家族単位でのウェルビーイング（イケア・ジャパン株式会社）、海の自然や漁師の仕事をどう守っていくのか（トヨタ自動車九州株式会社）など、取り組みの規模も視点もさまざまです。

どの回でも、参加者が自由に質問したり、感想をシェアしたりできるので、もっと話したくなる、もっと知りたくなる。そんな好奇心がふくらむ学びの場となってい

ます。この場で生まれた学びや気づきが、新しい活動のアイデアにつながっていくことを願って、いろんな方をゲストに迎えるキッカフェの団欒は、これからも賑やかに続いていきます。





事業実績

05

Players of Fukutsu

ふくつプレイヤーズ

登録者数：506名（2025年3月31日現在）



自分のまち（＝福津）をフィールドに活躍する。 まったく新しいネットワーク。

「ふくつプレイヤーズ」は、自分が暮らしているまち＝福津をもっと知りたい、新たな出会いや仲間が欲しいという想いを抱いている方を応援する取り組みです。公式LINEに登録すると、福津市内のボランティア募集や市民活動団体のイベントなどの情報はもちろん、福津の美味しいものやちょっといいことに詳しくなるメルマガ、プレイヤーズ限定の交流会など、多様な人たちとお近付きになれる有意義な情報が満載です。

日々忙しくて、地域のことを知ったり参加する機会が少ない方にもオススメのコミュニティです。

公式LINE開設後まもなく、放置竹林問題の解決にもつながる「たけのこ狩りの会」や福津のいいものを形にする「特産品開発の会」なども開催され、「ぜひ、やってみたい!」という多くのプレイヤーに恵まれました。

また、自分で何かを始めてみたいという方が、一緒に活動してくれる仲間を募ったりという、新しい出会いや横のつながりの場づくりも企画されています。

やりたいことを見つけ実現に向けて動き出すキッカケとして、まちの課題解決にも参画するネットワークとして、今後の展開が期待されています。



テーマ型（地域課題から生まれる）ネットワーク

円卓会議で議論されたテーマ：放置竹林問題（2023 年～）、園芸・緑の街づくり、地域防災（2024 年～）



それぞれの専門性やできることを出し合い、
地域課題の壁を乗り越える。

「テーマ型ネットワーク」は、市民や団体、行政、企業など、多様な立場の人が集い、地域の課題に向き合う企画です。テーマ（相談された地域課題）ごとに対話の場（円卓会議）を設け、ネットワーク構築（テーマ設定と場づくり）を重視したプログラムを展開します。対話を通じ参加者の関心や専門性が交差し、新たなプロジェクトへと発展します。

ますます多様化・複雑化する地域課題の解消には、市民一人ひとりの力と関わりが欠かせません。キッカケラボが取り組む「テーマ型ネットワーク」は、課題を中心に人が集まる仕組みでありながら、関わる人たちが充実感や楽しさを持ちながら取り組めることを大切にしています。だからこそ、取り組みは一過性ではなく、持続可能なアクションへと育っていきます。この仕組みは、誰かに役割を押しつけるのではなく「やってみたい」と思う人が自然に一步を踏み出せるような環境を育てていくことを目指しています。



現在こんなテーマが進行中です！

竹林活用プロジェクト

— 放置竹林から、地域の“おいしい”未来へ —

2023 年度に開催した「放置竹林から未来をつくる会議」や「たけのこ狩り&竹ごと体験プログラム」の流れを受け、メンマづくりにて特化した企画会議を開催。これまで多くの対話を重ねてきた中で、関心ある方が少しずつ集まり、春のたけのこシーズンに向け本格始動しています。

園芸でつながる福津の未来

— グリーンの力で、心も地域も元気に —

園芸を通じたウェルビーイングや交流の可能性に着目。福岡市を拠点に市民活動とも連携する企業「welzo」を招き、対話の場を設定しました。同社のプレゼンで、認知症患者の QOL 向上など、園芸の社会的価値を学びながら、市内ですてに行われている園芸活動の取り組みも情報共有。

世代や所属を越え、園芸が地域に与える力を実感しあえる時間となりました。

女性のための防災を考える

— 誰もが安心できるまちのために —

市民の声から生まれた「女性のための災害対応ハンドブック」。完成後、「もっと広めたい!」という相談を受け、子育て世代を中心に交流の場を企画しました。

当日は「地域で配布したい」「説明の場をつくりたい」「インフルエンサーとつながって広げられたら」といった前向きな意見が多数寄せられ、今後の展開が期待される動きとなりました。

BA-School バスクール

受講者数：1期生 23名（2022年）、2期生 20名（2023年）、3期生 15名（2024年）



私もできる、であい、つながり、楽しむ場づくり みんなが安心して語らえる「対話」の実践塾。

バスクール（BA-School）は、人が集まり、語り合える「良い場」を地域に増やしたい。そんな思いからスタートした、「場づくりファシリテーター実践塾」です。

半年間・全6回で構成されるプログラムでは、ファシリテーションや傾聴のスキルに加え、人を惹きつけるチラシづくりなども取り上げられ、安心して語り合える場づくりの考え方や技術を、参加者同士の対話と実践を通して学んでいきます。また、福津市の取り組みやこのまちが抱える課題についてもレクチャーがあり、参加者のまちへの想いや意識を高める時間にもなっています。参加者の年齢は10代から70代まで幅広く、とくに30～40代が中心。地元出身者に限らず、移住者や専業主婦、会社員、大学生など、多様な人たちが参加しています。日頃、地域とのつながりを持ちにくい市民が、自分の想いやアイデアを形にするキッカケとして、活用していることもこのプロジェクトの大きな特徴のひとつです。

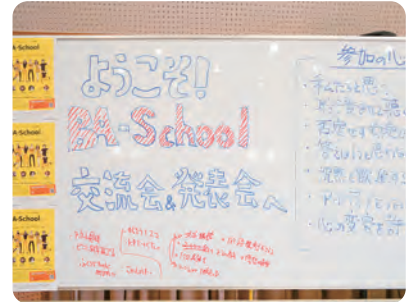
講師・伴走役は、地域づくりの実践者である山口覚氏（津屋崎ランチ代表）が務め、受講者の挑戦を丁寧にサポート。「自分のやりたいこと」をプレゼンし、仲間を募っていく回（第4回）では、「やりたいこと」とそれを支えたい人による小さなチームが誕生します。地域にとっても良い取り組みになるように企画を練っていく中で、はじめは「私にはできない」と言っていた人がチームメンバーとともにリーダーシップを発揮し、短期間で企画から広報、開催までを行う「小さなプロジェ

クト」を実践します。最終回の報告会に向けて、みんなのやってみたい！も高まっていきます。

そして、バスクールを通して育まれるのは、技術だけではありません。「私もできる」と思える感覚、自分への自信、そして対話から生まれる新たな仲間とのつながりが、大きな成果です。最初は「つながりがほしい」と思って参加した方も、「私のやりたいこと×まちにいいこと」の場づくりを実践する中で、まちの課題や良さが気になり、それに向けて何かしたいと思うようになったと語ってくれます。

住民一人ひとりが自分らしく地域と関わる姿勢は、ウェルビーイングの観点からも、持続可能な「まちづくりの原動力」と言えるものです。





Operation“Well-Being”

みんなで交流大作戦！

開催：2024年2月17日 参加者数：122名 場所：宮司コミュニティセンター



福津のウェルビーイングが集まる一日。 人とのつながりは、個人の幸福度を2倍に高める!?

福津市は、住み続けたいまちランキングで日本一に輝くなど、毎日の暮らしに「幸せ」を感じられるまちだと言われます。「みんなで交流大作戦!」は、そんな福津市の幸せ＝ウェルビーイングと出会ってもらうことを目的としたものです。地域や人とつながったウェルビーイングの研究で知られる東京都市大学の坂倉杏介氏の講演会からスタート。「ウェルビーイングって、自分にも関係あるのかも。」参加者からはそんな声があがるほど、身近でリアルな「幸せ」の捉え方に、たくさんの気づきが生まれました。続く、市民による事例発表では、光陵高校2年生の「かわいいから始まる、私たちのwell-being」を皮切りに、音楽散歩実行委員会、エニタイムフィットネス福津店、くらしの保健室と、学生から企業まで多様な4団体が登壇し、福津のまちに息づくウェルビーイングについて、それぞれの視点から紹介されました。

第1部のステージイベントが終わったら、第2部はお待ちかねの大交流会。「ふくつのおいしい交流コーナー」では、特産品の数々や食生活改善推進会の協力のもと福津の郷土料理「だぶ汁」が振る舞われたり、会場内の至る所には「ふくつの幸せ体験コーナー」と題したブースが登場し、いろんな幸せを実感することができました。中村慈恵さん＆福津の歌づくり実行委員会のブースでは、市制15周年を記念したイメージソング「You're My Home」のレッスンが行われ、最後は、参加者全員

で大合唱! 歌声と笑顔に包まれたラストシーンは、まさに「みんなのウェルビーイング」を体感しつながり合える時間となりました。



事業実績

09

Collaboration with other organizations and facilities

他組織・他施設との連携

実施事例数：45 事例（2025 年 3 月 31 日現在）



多様な主体のお助け役として、 「困りごと」や「やってみたい」をサポート。

開館当初はラボの認知度も低く、市内外の組織と関係を築くためには、こちらから出向き、対話を重ねていくことが必要でした。そうした地道な積み重ねを経て、2年度目以降は連携の相談、共働きの申し出が増え、2023年度20件、2024年度20件と継続的な連携を重ねています。市役所内の各課はもちろん、教育、環境、防災、福祉、まちづくりなど、幅広いテーマで市内外の団体・施設と関係性を深める動きが生まれています。たとえば、中学校での未来会議に向けたワークショップの実施、市民と行政が共に進める「環境フォーラム」の話し合いのファシリテーション、まちづくりを考えるワークツールの意見交換や実践企画など、ラボの関わり方も多様化しています。

こうした連携の中で意識しているのは、相手の「困りごと」や「やってみたい」という思いに寄り添うこと。特に行政機関との共働では、地域や市民活動団体との関係づくりにおいて担当者をサポートし、対話の橋渡し役としての機能を果たしています。立場の違いから生じる緊張感や温度差を和らげ、土壌を耕す存在として、ラボの役割が求められています。また、子どもたちには、単なるイベント協力にとどまらず、福津の地域課題やウェルビーイングの取り組みを伝えることを大切にしています。若い世代が「自分もまちの一員だ」と実感できるよう、地域との接点をつくる学びや対話の機会を組み込みます。地域の中にある多様な主体の力を活かしながら、

相手と一緒に実現プロセスを考え、支えていく。これからは「繋がりの中核」として、共働・共創の輪をひろげていきます。



ふくつウェルビーイング大賞 2024

2024年11月11日～12月22日 市民賞投票数/合計：5976票 場所：イオンモール福津 ほか



あなたの小さな活動が、 みんなのしあわせを変えるかもしれない。

「ふくつウェルビーイング大賞」は、福津市内で行われている市民活動のなかから、社会性が高く、参加者が楽しみや充実感をもって取り組んでいる「幸福度の高い活動」を表彰するプログラムです。活動の見える化と市民活動者同士のつながりづくりを目的に、2024年8月からエントリーを開始。自薦・他薦を通じて21の多彩な活動が集まりました。同年11月からは、21活動を対象とした「市民賞」投票を実施。イオンモール福津やキッカケラボ、市役所、WEBサイトなどを特設投票所として、合計5,976票が寄せられました。とくに、イオンモール福津での展示と投票、お楽しみ抽選会には、多くの来場者が訪れ、親子連れから高齢者まで幅広い世代に市民活動の魅力を伝える機会となりました。

12月には、宮司コミュニティセンターで表彰式を開催。開会の宣言とともにレッドカーペットを歩いて登場する21活動の皆さんの表情は、清々しい笑顔で溢れていました。

スタートするこの大賞が目指すことが宣言されたのち、「未来共創会議」によって選定された星の数（★～★★★★）の中から★★★★の4活動を発表。続いて「企業賞」「市長賞」「市民賞」の順で受賞活動が発表されました。協賛企業・協力企業による支援のもと、まちぐるみの表彰制度として、その定着が期待されています。

この取り組みは、市民活動を顕彰するだけでなく、活動者同士の新たな連携を生み出し、市民が地域に関心を

持ち、関わるキッカケとなることを意図しています。とくに、市民投票を通じて多くの市民が市内での取り組みを知り、応援する機会を得たことは、関係人口の増加という点においても重要な成果と言えます。

活動の「見える化」、投票という「参加」、表彰式での「交流」などを通じて、多様な立場の人々が、地域や市民活動・ボランティアなどにつながる構造が形成されつつあります。今後もこの取り組みを継続し、市民一人ひとりの小さなアクションが、まちの幸福度を高める力となるよう、その仕組みとして定着させていきます。

表彰された活動

- 市民賞** ・潮風吹く小さなまちの小さな灯り展
- 市長賞** ・海岸松林ウォーク
- ・「楽しい」と「得意」からはじまる、高齢者の支え合いと居場所づくりの活動
- 企業賞** ・自然環境再生プロジェクト 山結び（株式会社林田産業）
- ・津屋崎空き家活用応援団（株式会社片岡建設）

協賛・協力企業

- 協賛** 株式会社林田産業、株式会社片岡建設、西部ガス株式会社、有限会社七〇九保険企画、合同会社コモニカ、小寺油脂株式会社、第一生命保険株式会社、宗像プロパン瓦斯株式会社、宗像緑地建設株式会社、いとぐち株式会社、株式会社ファイブ
- 協力** 九州電力株式会社福岡支店、大塚製薬株式会社、イオンモール福津



「幸せと市民活動の9つの関係」

Well-being and Civic activities 9 relationship

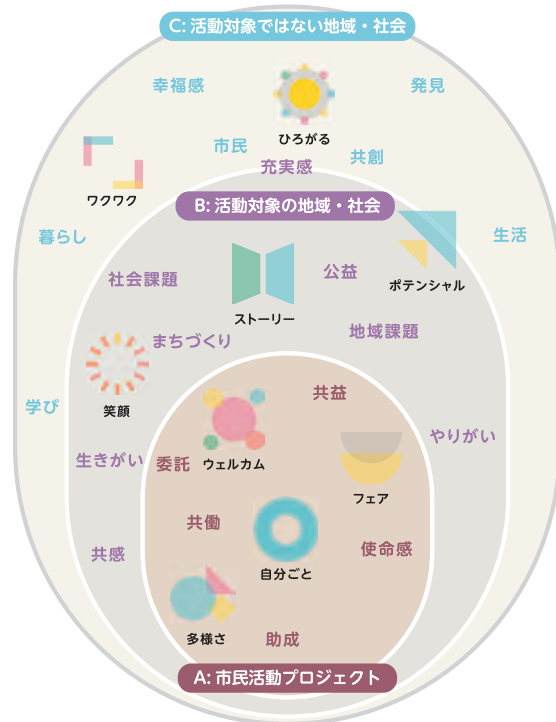
「幸せ」と「市民活動」との関係は、その関係性を示す対象によって、3つのカテゴリーに分類されます。

A: 市民活動やプロジェクトそのものの、スタッフなど内部での関係性(4項目)

B: その活動により直接的な影響を受ける対象者との関係性(3項目)

C: 直接的には関係ないものの、地域や社会における間接的な影響・関係性(2項目)

活動によっては、該当しない視点もあるため、一概には言えませんが、この9つの関係性が整っている市民活動は、実践者も対象者も、それを見守る地域も、ウェルビーイングな関係性を築けていることがわかります。



【活用例】

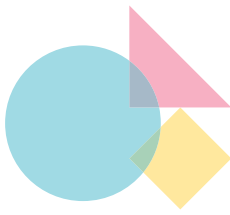
この9つの関係は、例えば自団体の活動をチェックする際に、「団体の活動はスタッフの“自分ごと”になっているか?」「活動の対象者である高齢者の皆さんは、心から“笑顔”だろうか?」「自分たちの取り組みは、地域から“ワクワク”されるものになっているか?」などと、振り返りの視点として活用することができます。そこで見つかった課題や足りない点は、次の取り組みで注力すべきポイントとして整理することができます。

キッカケラボが研究・開発した、 ウェルビーイングを共創する新しい発見

市民活動には「人を幸せにする力がある」と言われています。キッカケラボでは、多くの素敵な市民活動について、その実践者にヒアリングを重ね、「幸せ」と「市民活動」とのつながりを明らかにするために欠かせない「9つの関係」があることを見つけました。

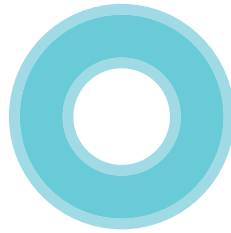
市民活動やプロジェクトに取り組み、この「9つの関係」をよりよいものにしていくことが良い活動へと繋がり、結果として市民の皆さんの幸福感：ウェルビーイングを高めてくれると考えています。すでにこの「9つの関係」は、前述の「ウェルビーイング大賞」において、それぞれの活動を選考する際の指標としたり、市民活動団体が自団体の取り組みを振り返る際や、他組織と連携した活動を効果的にするためなどに活用され、多くの効果をあげています。

多様さ

多様なメンバーが
協力し合う

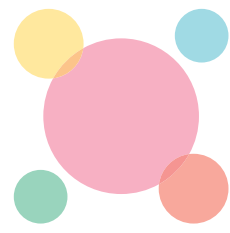
一つの活動に多様な世代・属性・専門性のメンバーが参加し、それぞれの得意なことや考え方をうまく生かしながら企画・運営がおこなわれている。

自分ごと

活動が自分ごと
になっている

メンバーの誰もが、活動の意義や目的を深く理解し、自分のなかの「やってみたい!」「実現したい」という気持ちに従って活動に取り組んでいる。

ウェルカム

新たな仲間が
加わりやすい仕組み

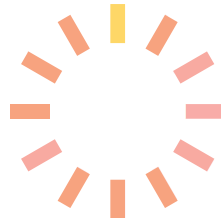
メンバーだけで閉じるのではなく、さまざまな人が活動に関わったり協力したりできる余地や仕組みが意図的につくられている。

フェア

お互いが価値交換
できる関係

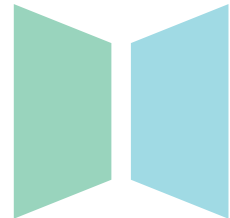
一部の人の負担や犠牲の上ではなく、活動に携わる人たちの間でさまざまな価値（生きがい・感謝・縁・お金など）がめぐることによってWIN-WINの関係性が保たれている。

笑顔

誰かの幸せを
生み出す取り組み

誰を笑顔にしたいのかが明確で、活動を通してたくさんの人の笑顔を生みだし、感謝を受けとることができる。

ストーリー

みんなの共感を
集めるストーリー

活動に至るまでの経緯やこれから進んでいくべき未来、関わる人たちの思いについて、みんなの共感・賛同を集めるストーリーがある。

ポテンシャル

潜在的な声に
耳を傾けている

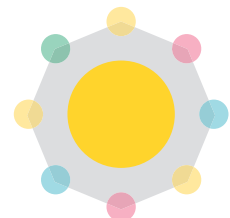
笑顔にしたい人たちが本当に求めているものを深く知ろうとする姿勢をもち、社会背景や当事者の声などのしっかりした分析ができている。

ワクワク

みんなを
ワクワクさせる

メンバーも、まわりで見ている人たちも、その活動の先にある未来に期待や面白さを感じ、ワクワクする気持ちを抱いている。

ひろがる



人に伝える工夫

どうしたら自分たちの活動の意義や魅力を人に伝えることができるかを考え、理解者や協力者の輪が広がっていくような情報発信ができている。

福津市未来共創会議

キッカケラボの立上げ前から、その仕組みや役割を議論し、行政等に多くの提案を行ってきました。地域コミュニティや社会教育の代表者、まちづくりや人材育成の専門家・研究者、福津のまちで活躍する事業実践者などが集まっています。

Akihiro Eto

江藤 彰洋

私にとってキッカケラボは、福津を舞台にした社会実験の場です。自治体为主导しながらも、既存の枠を超え、これまでにない新しい動きや価値が生まれていく場所だと思っています。

なので、「福津市のため」だけにとどまらず、これからの社会や暮らしにとって「福津市だからこそ」挑戦できる、重要でインパクトのある実験的な取り組みを、リスクを恐れずに仕掛けてほしい。まわりに合わせるのではなく、自分の視点で問いを立てられる「空気を読まない人」が、もっともっと関わってくれることで、このラボはさらに面白くなっていくと思います。



Hiroko Oku

奥 弘子

私にとってキッカケラボは、自分を成長させてくれた場所です。「幸せのまちづくりラボ準備会議」のメンバーとして関わりから、若い人たちと一緒に学び、交流し合い、何かを作り出す多くの出会いがありました。「郷づくり」を見てきた人間として、ここには、これからの地域活動を変えていく力があると感じています。BA-Schoolの発表会では、女性の、しかも30～40代参加が多くて驚きました。楽しみながら対話を重ねチャレンジしていく人たちが、確実に生まれていると実感します。今の「郷づくり」は、なんだか、昭和の時代の組織観が続いているように思えてしまいます。だからこそ、そこに新しい風をもたらしてくれることを期待しています。



Keiko Kimoto

木本 圭子

最初の頃は、正直「???」という感じで仕組みがよくわからなかったんですが、今のラボは、私にとってワクワクが詰まった「可能性の宝庫」です。社会教育の現場でもよく言われることですが、活動拠点が明確でないと、どうしても見える化がされづらくなります。今の形や活動内容を、もっと広く発信して、市民活動にとどまらず、福津市への「入り口」のような存在になってほしいです。どうしても若い方の参加が多い印象があるので、「地域デビュー講座」のように、もう少し上の年代へのアプローチも増やせればと思います。また、小中学校への認知を広げ、いろんな年代の交流や意見交換ができる場になると、よりよい展開が生まれると期待しています。



Atsushi Taniguchi

谷口 篤

市役所のとある部署にいた頃、「こんなことができる人、福津にいないかな」と探したことがありました。だけど、職員同士のつながりを頼るしかなく、情報が乏しくて苦労した記憶があります。だからこそ、キッカケラボのように、人のつながりを見える形にしてくれる場には期待しています。ラボに関わってほしいのは、福津に新しく来た方、戻ってきた方、長年住んでいる方、そして市役所の職員です。全部ですね。自分自身、50年以上福津を出たことがなく、市役所でもいろんな部署を経験しましたが、まだまだ知らない福津の魅力があるんだと感じます。人のつながりってすごい。離れてもまた、どこかでつながる。ラボが皆さんにとって“自分の居場所”になると嬉しいです。



Takaaki Nakagawa

中川 孝晃

キッカケラボのまわりでは、世代や団体の枠を超えたつながりが、あちこちで生まれています。ここに相談したら「何かやれそう」な気がする。自分も「何かやってみよう」と思える。やっている人たちがなんだか「楽しそう」。そんなふう感じられる地域の「触媒」のような存在です。だからこそ、移り住んで来て地域とつながるきっかけを求めている方、もっと地域と関わりたい企業や商店の方、今は福津市外に住んでいるけれども福津が気になっている方にも、ぜひ関わってほしいです。「ラボ」という名の通り、キッカケラボのまわりで、もっともっといろんな実験が生まれることを期待しています。



Satoru Yamaguchi

山口 覚

キッカケラボは、市民の主体性が根付き市民活動が盛んな福津市で、地域の文化を継承し、まちを元気にする「エンジン」のような存在です。「どうやってまちに関わればいいのか分からない」という方にとっての「玄関」として、大きな可能性を感じます。多様な人たちが出会い、つながり、そして行動へとつながる。その最初の一步をつくる場になってほしいと思います。中高生をはじめ、福津市に引っ越してこられた方、40～50代で既存の地域団体と縁がない方、定年後まちづくりに関わってみたい方、企業として地域づくりに関心を持っている方、そして郷づくりや自治会の現場で担い手不足を感じておられる方。どんな方でも歓迎される場なので、ぜひ多くの人に関わってもらえたら嬉しいです。



コネクター

福津市内を駆け回り、市民活動に関する相談対応、市民活動団体の取組や企業の社会貢献活動などのヒアリングなどによる情報収集を活用し、同じ課題感を持っている多様な主体同士をつなげ、新たなプロジェクトのを創出するのが大事な役割です。

Kanae Kataoka

片岡 佳苗

約2年、コネクターとして福岡市から通いました。8つの郷づくりの皆様、小中高校専門学校の生徒さん、キッカケラボの登録団体皆様、企業や事業者の方々、たくさんの人にお会いする中で、福津は人と人、人とまちの距離がとても近いところだと感じました。お祭りやイベントに行くと、親しみをこめてにこにこ顔で迎えてくださる。そうすると、うれしくなって次にお会いする機会が楽しみになります。自然や人を育み、強い意志を持って取り組んでいる人の姿が、とても印象に残っています。福津市のこれからが、ずっとにこにこ顔であること、そしてキッカケラボの活躍を期待しています！



Michihira Kijima

貴島 道拓

キッカケラボのオープン当初は、嬉しい声をいただく一方、「何をする施設なのか分からない」「自分に関係があるのか分からない」といった戸惑いや懐疑的な声も少なくありませんでした。それでも、数百名の市民の方々にヒアリングをさせていただき、取り組みについてお話を伺ったり、一緒に場をつくったりすることで、少しずつ共感や応援の声が増えていきました。全国的にも事例が少ない取り組みだからこそ、日々試行錯誤の連続ですが、これからも、福津市での暮らしがもっと豊かで楽しくなるように、皆さんと一緒に“キッカケ”をつくり続けていきたいと思っています。



Akiko Suzuki

鈴木 亜希子

開館からまもなく3年。ラボには「好きなこと得意なことを活かし、何かやってみたい」と、多くの市民が訪れてくれました。中でも特に心に残っているのは、小中高生のみなさんです。初めは遠慮がちでも、じっくり話を聞くうちに、地域への関心や思いが伝わってきます。さすが、コミュニティ・スクールを進める福津です。伴走する中で見せてくれる表情の、なんといきいきとしていることでしょう！楽しく取り組んだことが、地域の誰かの幸せにもつながる。そんな体験の積み重ねが、まちのウェルビーイングを育てているのだと思うと、私もワクワクしてきます。



Keitaro Mochizuki

望月 啓太郎

東京から移住して三年。これほどまで地域と関わることになるとは思ってもみませんでした。キッカケラボを起点に地域とのつながりが広がり続けています。もともと福津には地縁が無く、都市と自然との程よい距離感に惹かれ移り住んだものの、地域との接点を持てず戸惑っていた際に目にしたのが、BA-Schoolのポスター。「新たに住民になった方」「つながりがない方」という謳い文句に、自分のことだ！と応募。そこでたくさんの素敵な出会いをいただき、郷づくりや市民団体、市の審議会といった活動に参加するキッカケとなりました。そんなつながりを今度は自分が広めたいと、地域と向き合っています。



Hiroko Miyaki

宮木 裕子

市内でボランティア活動をはじめて20年。活動する側から支える側に転換して3年間。一番印象に残るのは「地域デビュー講座」です。この講座では、地域でいきいきと過ごす方の声を紹介しながら、退職した方やその準備をする方に、自分らしく地域に関わるヒントをお届けしています。この講座を作る過程で見つけた「自分らしい選択ができる人ほど、幸せに暮らしている」という事実は、とても大きな発見でした。受講後「定年後が楽しみになった」という声や、地域組織に関わったり、グループを立ち上げる事例も生まれ、地域とのつながりを後押しする、という講座の役割が果たせているようで、とてもうれしいです。





Project Report

2022-2024

キッカケラボの現在

発行：福津市（福津市未来共創センター キッカケ ラボ）

事業の詳しい内容は、キッカケラボの公式 HP（<https://www.city.fukutsu.lg.jp/kyoudou/lab/index.html>）をご覧ください。



キッカケラボ公式 HP